調布市教育プラン策定検討委員会　第3回
会議録

日時：令和8年9月29日（火）
午後6時30分から8時30分
場所：教育会館301・302研修室
傍聴者　2名

＜出席委員＞

神永　典郎　　委員
西村　咲枝　　委員
川端　宏志　　委員
塚松　美穂　　委員
石原　昌子　　委員
進藤　美左　　委員
武藤　貴子　　委員
土橋　久美子　委員
髙橋　慎一　　委員
松島　修　　委員
小鍛治　誠一　委員

＜議　事＞

1 事務局説明
2 グループ協議
3 次回日程等

＜配布資料＞

（1）資料1 第2回調布市教育プラン策定検討委員会 意見概要
（2）資料2 第3回検討委員会のポイント、グループ協議について
（3）資料3 次期調布市教育プラン体系図（素案）
（4）資料4 次期調布市教育プラン成果指標（素案）
（5）資料5 次期調布市教育プラン（素案）（施策1～4）
（6）資料6 次期調布市教育プラン（素案）（施策5～10）
（7）資料7 調布市社会教育計画について
（8）資料8 社会教育計画事業一覧（素案）
（9）資料9 次期調布市教育プラン用語集（素案）
（10）参考資料 調布市教育プラン策定検討委員会 第1回会議録

＜会議録＞

1 事務局説明

事務局より資料2～9について説明が行われた。

2 グループ協議

【A グループ】

施策5 魅力ある学校づくりの推進

委員　郷土の歴史・文化を生かした事業の展開、地域ゆかりの文化人等の功績を生かした事業の展開について、どう教育に結び付けていくのか具体的に示していけるとよい。

委員　中学校部活動だけではなく、小学校に関する指標は検討できないか。
コミュニティ・スクールに強い思いを持っている地域の人もいるが、あくまで子どものための学校であり、子どもを主語にして学校づくりを推進していってほしい。
コミュニティ・スクールは地域の理解、主体的な参画があってこそなので、そうした認識を共有したり雰囲気をつくっていくことにも注力していってほしい。
リード文冒頭に「伝統的なこと」「自然体験学習」等についても記載できるとよい。
リード文の中で、人材育成やその仕組みについても踏み込んだ記載があると市民として進んでいくイメージがしやすいと感じた。

委員　社会教育計画の事業と関連付けされたことは、一体的に策定する計画の素晴らしさで、本プランの特徴だと感じた。
特別支援学級に所属してスポーツ分野で活躍する子もいるので、そうした子どもの活動の場がなくなったり通いづらくなることがないように施策を推進していってほしい。

委員　魅力ある学校づくりの推進は、学校教育の中で大事な部分であり、様々な課題の解決にもつながっていくと考えている。
資金面、人材面での課題があるが個別計画で議論が進んでいるので、本プランでは大枠をふれておけるとよい。

委員　学芸員の専門知識を子どもたちに伝えていくこと等により社会教育との連携を具体的に推進していけるとよい。
各学校の特色ある教育活動について、各校のホームページ等へのリンクを本プランに掲載しリアルタイムで状況を共有していけるとよい。

委員　地域展開された学校数のほか、質の向上や市民の満足度等についても検討できるとよいと感じた。
目新しさや目立った活動だけでなく、各学校が地域の特徴や課題に合わせて展開する取組そのものが「特色」として評価されるとよい。伝統文化や地域課題に

取り組む総合的な探究の時間についても具体的に記載できるとよい。
部活動の地域展開は中学校のみの記述だが、小学生も地域のスポーツクラブ等での活動があるということをなんらかふれられるとよい。

委員　部活動に関するものだけでなく、社会教育分野と連携した地域の文化や伝統を学校教育にとりいれていくことを測れる指標を検討できるとよい。

委員　特色ある教育活動で地域の素材を用いることは、プランにおいて全体の進捗を測っていくということは難しいと感じている。プランとして充実していくという方向性には異議はない。

委員　保護者からも各学校が地域の特徴や課題に合わせて特色ある活動を充実しているという声はよく耳にするが、各校独自に推進しており、全体としては把握しづらいか。

施策6　安全・安心な学校づくりの推進

委員　アレルギーやこども性暴力防止の記載が充実しているのはよいと感じた。医療的ケア児について、看護師等の配置も安全・安心な学校づくりにつながっているだろう。
昨今災害が増えているので、防災教育は一層充実していけるとよい。
子どもの通学時の安全確保はより一層充実していけるとよい。通行禁止時間帯でも車がグリーンゾーンに入ってくることが今もある。

委員　食物アレルギーについて、調布モデルとしてしっかり対応を継続してこれている印象があり、十分な記載だと感じた。
「こどもの家」の普及啓発を行うなど、とあるが時代背景も異なってきており現場ではそこまで重要視されていないのではないかと感じている。郵便局やコンビニ等の方が子どもたちも駆け込みやすいのではないか。

委員　児童生徒の安全確保について、地域で関心を喚起するには「こどもの家」は有効だと感じている。今以上の普及啓発することは難しいと思うが、なくすということではなく、まちの商店と連携するなど時代に合わせた方向性を検討できるとよい。
調布市防災教育の日は、調布ならではの良さであり、大事な取組だと感じている。有事の際の行動について学ぶことは社会教育にもつながっている。
充実した記載に修正されたと感じた。医療的ケア児について、看護師等の配置や環境整備が進んでいることが伝わるのは調布市の特徴であり、重要なことだと感じた。

委員　水害や土砂災害についてもリスクのある土地でありその対応が重要になるということも記載できるとよい。

委員　施策7主要事業 25 に関連事業として掲載している。それぞれの事業で重層的

に対応していけるとよいと考えている。
「こどもの家」の記載については、実態にあわせて修正を検討できるとよい。

委員　形骸化せず引き続き充実した取組を推進していってほしい。
有事の際の避難所での行動など、具体的にイメージをもてる学びの場や充実していくとよい。
令和7年度から開始した「みまモーニング（調布市立小学校児童への早朝見守り事業）」は引き続き継続していけるとよい。

委員　「みまモーニング（調布市立小学校児童への早朝見守り事業）」は子どもが学校の授業時間にはいっていくにあたって体を起こすよい時間になっている。

施策7　学校施設整備の推進

委員　建替は現実的でなくても、子どもたちが安全に安心して学べる環境づくりという視点で修繕はしっかり実施していってほしい。

委員　目標値を達成しているということか。指標であれば現時点で達成していないものを掲げて、目標を設定していくものだと感じた。
「学校施設と他の公共施設との施設複合化を視野に入れた、校舎建替等の検討を進めます。」とあるが、プールの検討状況についてもここで書き込むことを検討できるとよい。

委員　夏休みの子どもの居場所づくりといった視点でもプールについてなんらか記載できるとよいと感じた。
「避難所機能の充実」とあるが、防災教育の観点から児童生徒に対して「有事に際に学校が避難所として使用できる」ということも日頃から周知できているとよい。

委員　今後中長期的には児童生徒の数が減少していくことが見込まれており、リード文の「児童生徒数の増加に対応する」という表現ではなく、「増減への対応」や「柔軟に対応し整備・改善に取り組む」という表現にしてはどうか。

委員　資材や人材面で課題があるが、計画的に対応していく必要があると認識している。

委員　不足教室への対応や施設老朽化への対応についてもなにか検討できるとよい。

委員　気候の影響で屋外プールが使えない状況が多い認識がある。日よけを導入していることも把握しているが、すべての子どものプールの機会をつくっていけるとよい。
校庭の改修については、砂埃が子どもの健康や衛生面で課題になると思うので進めていただきたい。

【B グループ】

施策5　魅力ある学校づくりの推進

委員　　主要事業 21 に関して、PTA の総会等で、部活動の地域移行が進む中で、これまで教員や学校が担ってきた「教育的意義」が損なわれないか懸念する意見があった。単に活動場所や受け皿を変えるだけでなく、部活動が果たしてきた教育的役割を地域移行後もどのように保障するのかを主要事業 21 に明記してほしい。

主要事業 20 の「校務 DX」という用語が難しく、用語集にも見当たらなかったため、具体的な内容や効果が一般の人にも分かるように記載してほしい。

委員　　施策 5 のタイトルが「魅力ある学校づくりの推進」であるのに対し、成果指標が「部活動の地域展開」のみになっているため、部活動が魅力ある学校づくりの全体的なポイントのような印象を持たれる可能性がある。初めて見る人が誤解しないよう、成果指標の設定理由や全体の狙いについての説明を付記するか、掲載する順序を工夫してほしい。

委員　　成果指標は、必ずしも施策全体にかかっているのではない。この施策の成果指標は、コミュニティ・スクールの設置だったが完了したため、今回は部活動の地域展開を入れたものである。

委員　　コミュニティ・スクールと地域学校協働本部について、全 28 校への設置が完了したから終わりにするのではなく、その後の運用・充実が重要。校長や副校長などの管理職が異動で新しく着任した際、地域や学校協働本部への理解度が人によって異なり、連携が上手くいかないこともある。管理職が代わっても地域との連携やコミュニティ・スクールの理解が途切れないよう、継続的な周知や理解促進、運用の充実を図る記述を入れてほしい。

保護者アンケートでは「地域学校協働本部についてよく分からない」という回答が依然として多いので、理解の促進をお願いしたい。

委員　　施策 5 の成果指標が「休日の部活動地域展開」になっている点について、部活動の推進ばかりが目立ってしまい、「魅力ある学校づくり」と直接結びつきにくい印象を受けてしまう懸念がある。

背景の文章で、コミュニティ・スクールが「全校導入された」とあるが、その後が、中学校の部活動の記述になっているので、すべての小中学校ということが伝わる記述にしてほしい。

主要事業 20 の校務DXは、わかるように記載してほしい。

主要事業 18 の「博学連携事業」について、具体的な内容を記載して一般の人にも分かりやすくしてほしい。

主要事業 19「教員の人権意識のさらなる向上」に関して、令和 8 年 12 月に施行される「こども性暴力防止法」について記載してほしい。

委員　　主要事業 17 の説明文の「児童生徒の意見に耳を傾けながら」という文言について、文章の最後にある「学校活動の充実・活性化を図ります」の前に配置した方が分かりやすいと思う。

主要事業 18「特色ある学校づくりの推進」に記載されている「中学校学校選択制」について、各中学校の特色を理解して選択につなげるという視点を整理し、内容に明確に反映してほしい。

部活動の地域展開は、教員がボランティアとして担っている状況や働き方を是正し、持続可能な形で部活動を継続するために、短期間で集中して解決しなければならない重要な課題であることは確かである。

施策6　安全・安心な学校づくりの推進

委員　　主要事業 24 にある「こどもの家」について、個人宅の協力家庭の高齢化、空き家化、日中の不在などにより減っている市、PTAによる毎年の訪問点検も難しくなっている。既に事業を終了・縮小し、店舗や公共施設への移行を進めている学校が多い現状を踏まえ、このまま記載するのではなく、現状に合わせた記述にする必要がある。そういった状況を背景に追記できないか。

委員　　成果指標として「調布市防災教育の日の参加者数」となっているが、今後は児童生徒数が減少していくため、「参加人数」ではなく「割合」とした方が良いと思う。

主要事業 23 の「セーフティ教室」について、警察の人が来て低学年で実施されているが、高学年や中学生など発達段階に応じた防犯・性被害防止も含めた一貫した充実・継続を行ってほしい。

食物アレルギーについて、特に小学校 1 年生の給食開始時期は児童自身も理解が不十分で、食物アレルギーがある児童のためのピンクトレーの子がおかわりに並んでしまうなどが生じている。担任も目が届かないこともあるので、給食の時のサポート体制や人員の配慮をしてほしい。

委員　　主要事業 22 において、食物アレルギーについて教職員向けの各種研修は、継続して実施している。学校現場での人員配置の可能性については検討していきたい。

委員　　主要事業 22 の食物アレルギー対策について、アレルギーを持つ児童本人だけでなく、周りの児童生徒や大人に対しても正しい知識・理解を深める指導を行う必要がある。

重度のナッツアレルギーでは、周囲で食べた人と話すだけで症状が出ることもあり、香水などの匂いによるアレルギー症状などもある。周囲のアレルギーを持っていない子にもアレルギーの知識を理解してもらうような新しい視点を入れてほしい。

主要事業 24 について、「朝の小 1 の壁」対策や幼小連携の重要性に触れ、幼稚園も学校教育法上の学校であるという認識の下、幼児教育との連携に関する記述や意識付けをプラン内に盛り込んでほしい。

委員　施策 22 の主な取組に「アレルギー対応調理室」があるので、関連事業の方での「アレルギー専用調理室の設置」の記述は不要と思う。

主要事業 24 の主な取組が多いので、「校内用携帯電話を活用した、緊急時における連絡手段・体制の継続」は、10 数年前に導入された古い取組であり現在では当たり前になっているため、重点項目として載せ続ける意味が薄いので削除してもよいと考える。

「スクールカウンセラーやソーシャルワーカーによる相談体制の充実」や「一人一台端末を活用した心の健康観察の実施による、悩みや不安を抱えた児童生徒の早期発見や早期支援」については、施策6よりも、個に応じた支援を扱う「施策4」へ移動した方が合うと思う。

背景で「日本版DBS」が入っているが、主な取組の方では挙がっていないので、何かを記載できると良い。

委員　主要事業 23 の「セーフティ教室」に関連して、近年問題となっている特殊詐欺に巻き込まれることが心配されていて、SNS の怖さなども学んでいる中で、そういったことについてもふれてはと思う。

主要事業 24 の「放課後学習支援を通じた居場所づくり」について、放課後に限定せず、不登校児童生徒の校内別室などでの居場所づくりも含めた幅広い居場所づくりとして記述を拡充してほしい。

施策7　学校施設整備の推進

委員　主要事業 27 の「避難所機能の充実」に関して、避難所訓練は通常、体育館や校庭が中心となり、土日には教室に入れないことが多いものの、実際の熊本などの大規模災害では教室に宿泊・避難する事例があった。教室を使用した防災訓練の実施は許可が難しいと思うが、訓練時に教室を使用できるよう検討してもらいたい。実際の災害を想定した避難所訓練や、避難所機能の実行性を高める取り組みを計画に盛り込んでほしい。

委員　主要事業 27 の「小・中学校プールの今後のあり方検討」という一文について、この一文だけでは具体的にどのような内容なのか分からないため、より詳しく知ることができる工夫をしてほしい。例えば、詳細を知りたい人が参照できるよう QR コードを掲載するとか、主要事業 25 にあるような「調布市公共施設マネジメント計画」や「調布市学校施設整備方針」などの用語について、用語解説だけでなく内容を調べることができるようになっているとよい。

委員　「調布市学校施設整備方針」や「公共施設マネジメント計画」などの根拠となる計画・方針は、用語解説に説明は入れているが、各計画の概要や関連性が分かるような説明があるとよい。

委員　主要事業 25「学校施設の更新」について、学校の廊下や窓際で雨漏りが発生し、児童生徒が滑って怪我をしないようにダンボールを敷いて対応している学校がある。老朽化による様々な問題がある中で、雨漏りも、子どものケガを防ぐ基本的な事項として迅速に対応してほしい。

委員　成果指標において「屋上防水・外壁・受変電設備」の予防保全を挙げているのは、施設を保全する最優先の3つということで絞っている。雨漏りについても、学校からの要望に応じてその都度修繕を行っていく。

委員　前回の教育プランにあった「カーボンニュートラル」が、用語説明にあるが本文にはなくなっているので、整合性を確認してほしい。小中学校の 35 人学級編制について、小学校での引き下げが令和 7 年度までに完了したことを踏まえた記述がないと、中学校ばかりに焦点があるように見えてしまうので、背景部分に記載できるとよい。初めてこのプランを読む人にも「小学校の 35 人化が完了したから次は中学校なのだ」と伝わるよう、これまでの経緯や取組を丁寧に記述してほしい。

委員　主要事業 25 に、学務課の「学校給食（アレルギー専用調理室の設置）」が含まれているが、施策 6 の主要事業 22「食物アレルギー対策の推進」にもアレルギー対応専用の設置・整備が記載されているため、施策 25 の方での重複記載は不要ではないか。

主要事業 27 について、猛暑対策や環境対策として、校舎建替・大規模改修時の断熱化、窓ガラスへの遮熱フィルム設置などの取組が盛り込まれており、しっかりと推進していくつもりである。

委員　主要事業 25 の「小・中学校プールにかかる基本的な考え方」と、主要事業 27 の「小・中学校プールの今後のあり方検討」は同じ内容を指しているように思うが、表記と重複について確認してほしい。

委員　主要事業 27 に関して、避難所としての学校を開設する際に、体育館のみが基本なのか、他の教室も開放されるか、どのようにして開放されるのか。2019 年の台風 19 号の際、校長の確認が取れないため校舎を開けられず、体育館が満員になって避難者を他所へ回さざるを得なかったことがあったので、鍵の管理や開設判断のルールについて教えてほしい。

委員　体調が悪い方やペットの対応などために体育館以外を使用することはあり、あらかじめどの部屋を使うかは決めてあるはず。学校を避難所として開設・運営するのは校長の許可待ちではなく、市の判断・対応で行うものであり、台風 19 号の際も市職員等の現場の判断で教室を開放して避難者を入れた例はあった

と思う。

委員　　成果指標について、食物アレルギー専用調理室の設置を進めているのであれば、その整備目標なども指標に含めるべきではないか。

委員　　トイレの改修率など様々な要望はあるものの、学校運営に最も重要な影響を与える基幹部分（屋上防水・外壁・受変電設備）を最優先として成果指標にしている。

3 次回日程等

事務局より次回策定委員会の日程について、説明が行われた。

以上